

大隅基礎科学創成財団「創発セミナー」案内

1. はじめに

日本の産業界がどこも袋小路のような隘路に入り込み、悪戦苦闘しています。視点の転換が必要な時代になっています。生物は、40億年の歴史の中で、最も洗練されたシステムです。この洗練されたシステムの基礎を解き明かそうとしている基礎科学者の発想、関心は、隘路でもがく企業人に新しい着眼を与えてくれる可能性があります。

求めている結果に辿り着くため、科学者は幾度となく研究を繰り返します。失敗はその過程で起きるひとつの出来事です。失敗から次のステップが見えてくることもあるので、科学者にとっては成功と同じくらい大切なものです。

私たちは、失敗に怯えてしまう傾向にあります。そのせいで、新しいことになかなかチャレンジできないこともあります。しかし、科学者の視点からすると、失敗はあくまでも成功への過程。失敗をしてこそ、「自分の目標に近づく」という認識なのです。

財団では、基礎生物学と接点の無い企業人にとっても刺激のあるテーマを選んで、毎回2名の最先端基礎科学者に、現在、行っている研究領域での「成果」と「直面している課題や悩み」を分かりやすくお話いただきます。更に、講演後の懇親会を通して、参加者相互の化学反応を引き起こしてみたいと考えています。これまでにない異業種交流の場として、基礎科と産業界の新しいコラボレーション関係を構築にまいります。

なお、研究会には、情報通信サービス、電子・電気電子・精密機械、素材、食品などの経営者並び経営企画、技術開発等担当者の方々のご参加を募る予定です。

2. 研究会概要

- ・開催 : 年間10回開催(1月、8月休会) 第1回は2018年2月スタート予定
16時~18時(講演) 18時~20時(参加者全員による懇談会)
- ・賛助会費: 一口100万円(研究会の余剰金は財団の助成資金に活用させていただきます)
- ・会場 : 東京都内

※大隅理事長もできる限り懇親会に参加して、多くの方とお話させていただく予定です。

予定されているテーマ

- 第1回 コンピューターで生物をどこまでシミュレートできるのか？
- 第2回 共生が生き物を変える
- 第3回 サバはマグロを生むことができるか？
(命をつなげる生殖細胞を 「知る」・「使う」)
- 第4回 生物が生み出すエネルギー (高温微生物の発酵、人工光合成)
- 第5回 細胞はどうできているか？ (生体膜の最前線)
- 第6回 生命の起源・宇宙
- 第7回 生き物の性「性は移ろいやすいもの」
- 第8回 極限状態でも「したたかに」生きる
- 第9回 体内時計 (睡眠の研究)
- 第10回 壁を超える